

三陸の海を放射能から守る

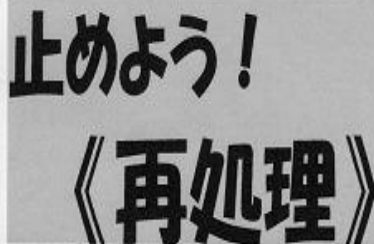
岩手の会 (略称) 三陸の海・岩手の会

郵便振替 02240-5-102650

ホームページ 《再処理/岩手の環境》

<http://sanriku.my.coocan.jp/>

《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》

2016(平成28)年

8月28日

第168号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

六ヶ所再処理工場

昨年8月2日夕刻

落雷により主要建屋全て計測器被害 本格稼働中であれば重大事故に!



日本原燃・六ヶ所本社 7月20日

公開質問書への 回答書を受けとる

北日本の七市民団体が連名で提出していた「六ヶ所再処理工場の落雷事故に関する質問書」について、回答書を受け取るために、七月二〇日市民団体代表七人が六ヶ所村の日本原燃本社を訪問し、広報担当者から説明を受けました。今回は事前に回答内容が提示されましたので、回答に対する質問が具体的に、問題点がより明らかになりました。その結果、電子制御計器だけの再処理工場は意外に雷被害という自然現象に弱いことがわかり、真剣な対策が必要であるという認識が深まりました。デリーー東北、東奥日報、河北新報の三社が取材しました。

落雷事故の 事実関係

分離建屋だけの 事故ではなかった。

公開質問

報告書表題が「分離建屋における安全上重要な機器の故障について」となっている。事故は再処理工場全般に及んでおり、分離建屋だけに矮小化していないか?

原燃回答文

「再処理の事業に関する規則」により「報告対象は分離建屋に設置し

当日のやりとりとコメントは当会ホームページ

<http://sanriku.my.coocan.jp/160720Q&A&Csum.html>

ている安全上重要な機器の故障」の報告としてまとめた。しかしながら、複数の機器に不具合が発生した可能性が高かったため、分離建屋以外の故障についても報告した。

◇市民：故障は分離建屋だけでなく様々な建屋で被害が生じていた。情報は私達に分かりやすい表現で事実を知らせてほしい

◆原燃広報「・・・」

廃液濃縮缶の温度計、漏洩液受皿液位計が故障

公開質問

高レベル放射性廃液を濃縮してガラス固化する工程に送る「廃液濃縮缶」の出口ガスの温度計と漏洩液の液位計が故障したという。濃縮缶には高レベル廃液が何リ入っていたのか? この高レベル廃液の崩壊熱対策と分解水素発生対策はどのように行ったのか?

回答文

再処理運転も廃液濃縮運転も行っていないかった。その時の濃縮缶中の廃液量は「運転情報」にあたるため答えられない。冷却水も水素掃気

用圧縮空気も供給が継続されていた。

質問と説明

◇市民側：高レベル廃液はもつとも危険だ。その情報を知りたい。濃縮缶中の廃液量について「運転情報」だと何故公表出来ないのか?

◇原燃広報：技術提供を受けたフランスのアレバ社との契約による。

◇市民側：商業上の競争相手もないのに何故秘密なのか?

本格稼働中だったと仮定して

公開質問

本格稼働中と仮定し濃縮缶への加圧蒸気を遮断出来たととしても、その後蒸発缶にある高レベル廃液の崩壊熱や放射線分解水素は除去しなければならぬ。計器異常の中で作業員はどのようにして判断するのか。同時に四箇所の計の器が異常を示した場合のマニュアルはあるのか?

回答文

落雷事故で計器が異常になっても供給を停止するインターロックが作動し、高レベル廃液

濃縮缶の加熱も停止する。計器異常が複数発生しても作業員が保安規定に定める措置を講じるので安全確保は可能である。

質問と説明

◇市民側から：水素掃気も計器が異常では判断出来ないだろう。人間は失敗する。ヒューマンエラーに配慮しているのか。

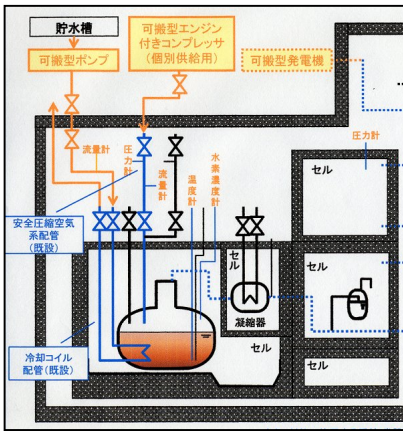
◆原燃広報：冷却水や圧搾空気は供給されているので問題ない。計器が異常でも作業員の目視で確認出来る。

水素掃気用圧搾空気の圧力計が故障した

公開質問

報告書で故障とされた分離建屋の水素掃気用圧搾空気の圧力計A

多数の計器が必要 高レベル廃液濃縮缶建屋



原子力規制委員会 核燃施設新規制基準審査会原燃提出資料より

と同Bについて詳しい配置図と故障の計器類を示してほしい。

回答文

水素掃気用圧搾空気の圧力信号を、制御建屋に設置している安全系監視制御盤に伝送するためのデストリビュータ(分電盤)が故障していることを確認した。予備品と交換したのはA系は八月一七日、B系は八月一四日である。圧力計の配置を示すことは控える。

質問と説明

◇市民側：落雷事故から復旧に半月もかかっている。大丈夫だったのか？

二七〇台の保安器設置 落雷事故対策の全てを

公開せよ

公開質問

今回の落雷事故対策として、故障した計器(デストリビュータ)に保安器を設置するという。その台数は前処理建屋に約一〇〇台、分離建屋に約八〇台、精製建屋に約三〇台、ウラン硝酸建屋に約五〇台、計二七〇台にも達する。落雷事故により工場全体で多数の計測機器類に異常が起こったものと推察される。故障報告外のことも推察される。もし本格稼働中昨年夏のような落雷事故が起こっていたならば高レベル放射性廃液の沸騰、水素爆発、臨界、火災などが同時に起こり大事故に結びつく可能性がある。保安器の設置場所など全て詳細報告を公開すべきである。

回答文

報告書に述べたとおりである。なお故障が確認された計器以外の計器に対しては、今回の事象における推定原因を踏まえ、予防措置として保安器を設置するものである。

◇市民側：保安器設置二七〇箇所に制御建屋が

抜けている。中央制御室があり最も重要なところであり、そこで火災報知器や防災盤が故障し、その原因はトランジスタだと報告されている。火災報知器や制御盤の対処はどうしたのか。

◆原燃広報：質問にないものには答えられない。

◇市民側：火災が発生しても報知器が壊れていれば分からないではないか

◆原燃広報：確認してみたい。

敷地過去最大雷撃電流211kA(クアンパ)に対し、150kAの避雷対策とは！

公開質問

最大雷撃電流を二七〇kAとして避雷対策を立てると言うがその根拠はなにか？

回答文

これまで六ヶ所再処理工場敷地内で観測された落雷最大雷撃電流は211kAである。これをもとに270kAを想定した。運用上の措置を定め安全を確保する。

◇市民側：過去の雷撃電流が211kAであったなら、何故、150kAのままにしておいたのか。民間の落雷安全施設会社のデータでは日本全体で

は過去に500kAの落雷の事例もあるという。270kAでも対応出来ない。

◆原燃：要望としてお聞きしておく

◇市民側：「聞いておく」では困る。アースに逃がすというが、しっかりとした設備によりこれまで最大の雷撃電流事例でも安全確保しなければならぬ。どんな対策を立てているのか？強化工事は進んでいるのか？

昨年夏の雷撃事故の後遺症が残っている？

公開質問

去年の落雷事故以降の四つのトラブルは落雷事故の後遺症ではないか

回答文

落雷事故後の事故として四件あった。

- ①分離建屋における非常用交流電源装置の故障…IC(集積回路)の接合部の剥がれが原因
- ②使用済み核燃料貯蔵建屋の火災…査察機器のバッテリーが規格品ではなかった。
- ③海洋放出管からの排水のにじみ…配管のつぎで不良だった。
- ④貯蔵建屋における非常用交流電源の故障…調査したが当該電源は健全であった。

市民：③を除き去年の落雷による影響が考えられる。さらに六月二十七日にも分離建屋の非常用交流電源が故障したというがA系B系が交互にトラブルを起こしている。④の非常用電源装置については健全との回答だが、同じ装置が六月二十七日にも故障している。落雷事故の後遺症ではないか？

◆原燃：系統はちがうが調査してみる

安全に関する情報は 早急に出すべきである

市民側一質問と要望

昨年の八月二日夕方の落雷事故のとき、六ヶ所再処理工場構内にいた作業員は何人か？

◆原燃担当者：会社員二六〇〇人中六〇〇人くらい。協力会社員も入れて約百人。すぐ駆け付ける体制は敷いてある。

◇市民：落雷事故時の「保安器」がよく分からない。アースに逃す工事の方法も含めて説明してほしい。

◇市民：六ヶ所村に住んでいるが、情報があまりに少なすぎる。情報公開をしっかりとやってほしい。

(この報告記事は次号に続きます)